

会 議 録

議 題	第2回大垣市中学校部活動地域移行検討委員会			
日 時	令和5年11月13日	場 所	スイトピアセンター7階会議室1	
	14:00～16:30	事務局	教育委員会事務局	
出席者 (欠席者)	竹内治彦委員	長谷川哲也委員	傍聴者数	非公開
	高橋正紀委員	松村麻里委員	記録方式	全文・ 要約
	寺元陽子委員	横尾宣幸委員		
	川瀬尚志委員	山口敏文委員		
	西脇義照委員	高橋淳委員		
	小竹康一委員	原川拓雄委員		

【発言】

○中学校活動地域移行 構想素案について

（委員）構想素案にSDGsと関連付けて「誰一人取り残すことなく」といった言葉ある。この言葉の、意味するところについて、「競技志向」で頑張りたい生徒も含んでいたり、特別支援学級の生徒も含んでいたり、捉えが様々であるので、一度整理し、共通理解する必要がある。

（委員）競技志向にのみに偏るものではないという基本理念・基本方針については、委員の共通認識である。

（委員）エリア分けしながら、地域移行を進めていくとよいのではという意見もあるが、指導者不足、進捗状況の差があることから、現段階でエリア分けをして、進めていくことは難しいため、部活動ごとに進めていくという方針でよいと考えられる。

（委員）構想素案については、実証期間などを通して、明らかになることもたくさんあると考えられるので、適宜修正を図るなど、柔軟に対応していくとよいと考える。

(委員) 経済的な理由で活動できない生徒へ配慮した支援についても検討を進めて必要がある。また、来年度以降どのような流れになっているのか、不安に思っている生徒、保護者もいるため中学校や小学校への周知もお願いしたい。

(委員) 教職員の部活動の関わり方についても、課題となっている。教職員の中にも色々な考え方があり、負担に感じている教職員がいるのも事実である。教職員の人材確保という視点からも、地域移行を進めていきたい。

(委員) 令和6年度以降からの実証事業について、様々な地域クラブが設立されることが予想されることから、ガイドラインや、どのように地域クラブを認証していくのかについて検討を進めていく必要がある。

(委員) 地域移行に関わるガイドラインについては、実証事業が始まるまでにある程度検討を進めていく必要がある。しかし、言葉の整理だけでは、限界がある。どうやって地域クラブの運営に落とし込んでいくのかが鍵である。

(委員) 土日の部活動への移行が今回の論点になっている。土日の部活動の位置付けをどのような認識でしていくのかについて、委員会の中でも議論していく必要があるのではないかと考える。

(委員) 構想素案について、修正点はあるが、概ね今回の提案をもとにして進めていくことが、今回の大垣市中学校部活動地域移行検討委員会で確認された。

特記事項	
------	--

主宰者等 署名
